FOR YOU（フォーユー）

男女共同参画社会の実現に向けて

男女共同参画情報紙 第45号

〈十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科の学生〉

～女子学生が聞く　男女共同参画社会　Part1～

男女共同参画社会について若い女性たちに考えてもらう機会を作りたいと考え、十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科石野榮一教授の協力を得て、同大の学生が市内の事業所にインタビューしていただきました。その一部を抜粋します。

互いの気遣いが男女の差なくす鍵はコミュニケーション
増木工業株式会社代表取締役 増田敏政さん

「会社の基本は、コミュニケーションを密にして働きやすい環境を作っていくことです。」そう語るのは、新座市に本店を構える増木工業株式会社代表取締役増田敏政さん。

増木工業㈱は、創業明治5年。材木店から始まり現在は建設・住宅・不動産分野など幅広い事業を展開し、地域イベントに積極的に取り組むなど地域に根差した歴史ある企業です。

国は、男女共同参画の取組の一つとして社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30％程度とする目標を掲げています。増木工業株は、役員を除く社員73人のうち女性は31人と、全体の約4割を占めており、女性を積極的に受け入れています。

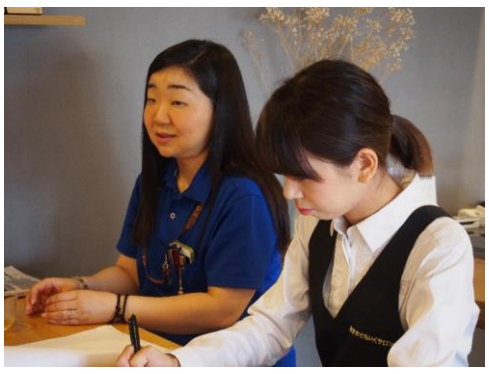
〈増田 敏政 氏〉

この点について増田さんは、「わが社では、この認定制度ができる以前から臨機応変な働き方の対応を実施してきたと自負しています。」と語っていました。

以前から女性の働き方について着目し、埼玉県が提唱するウーマノミクスプロジェクトにすぐに賛同したこともその表れと言えそうです。

同社管理本部総務課長の伊藤聖美さんは、「性別に関係なく、それぞれの能力を上手に活用することができている企業だと思います。また、社員がお互いに思いやりを持つことが働きやすさにつながっていると思います。」と語っていました。

仕事柄、体力を必要とする職種が多く、その中で互いを気遣い合う重要な手段としてコミュニケーションが重視されていることがうかがえました。



〈左：伊藤 聖美 氏〉

◇代表自ら社員へ語り掛ける

増田さんは、「コミュニケーションが良いと会社も良い雰囲気になり、企業価値の向上に反映されます。」と語っており、新入社員研修に毎年自ら率先して参加し、働く意味について語り掛けているとのことです。

伊藤さんは、「就職活動では会社・職場の人の雰囲気を実際に肌で感じることが大切」と私たち学生に温かなエールを送っていただきました。

◇女性の働き方に着目

増木工業㈱は、埼玉県が仕事と子育ての両立を支援する目的で策定した「多様な働き方実践企業認定制度」で6項目中4項目に該当するゴールド認定を獲得しています。

（飯塚智美　加藤朋美　田中久美子　伊波花琳　本木優巣　ハク・セツ）

〈増田氏と学生〉

男女共同参画進めるには家庭、生活を大切に
小規模保育施設ぷりえ園長 佐藤聡子さん

男女雇用機会均等法が施行（1986年）されてから女性の働き方が変わってきています。そして男女共同参画社会基本法制定から18年、我が国における男女共同参画は、日常生活全般や価値観に変化をもたらしたのではないでしょうか。

例えば、保育園では保護者や職員間でも「女性だけの仕事」というイメージがありましたが、最近では保育園で働く男性職員も増えています。かつては母親が園児の送迎をする姿がよく見られましたが、今では父親が送迎する姿も見られます。保育園に男性が関わることに違和感がなくなりつつあるのは、男女共同参画の取組が一定の成果をあげているからではないでしょうか。

そんな思いを胸に、男性も働きやすい環境を目指す「小規模保育施設ぷりえ」の佐藤聡子園長を訪ね、園での取組を聞きました。

◇全職員の協力と多様な視点

「まず、保育士も自分の家庭や生活があり、働く上でそれを大事にしてもらいたいということを基本にしています。自分の家族を大事にすることが園でも子どもを大切にでき、成長を喜べることにつながると思います。そのため、勤務シフトを組む上で、こちらの要求を押し付けるのではなく、しっかりと職員の希望を聞いています。子どもの学校の行事などで休みを取りたい、自分をスキルアップしたいなど、働きながら自分の夢を諦めないように全職員が協力して一緒に働けることを大切にしています。また、職員が一緒に働く上では、男性の視点も女性の視点も大事だし、保護者の視点も大事です。意欲や、やる気があれば性別は関係ないと思います。現在、1園に1人の男性職員がいますが、持ち前のきめ細やかさを発揮したり、逆に力仕事を率先してやってくれたり、大切な同僚になっています。」と佐藤さんは語っていました。

〈佐藤 聡子 氏〉

◇地域と共に歩む

佐藤さんは、子育ての相談相手がいなかったり、頼る人がいなかったりするケースをたくさん見てきた経験から、地域に根付き、地域の人たちに見守られながら子育てができる園を目指しているそうです。

「他の市町村の園とも手を取り合うし、異なる業種の方や地域の方々と協力し合う。年齢性別に関係なく共にあるんだということを地域の中で当たり前に見せていくことが大事だと思っています。うちだけが特別じゃなく、そういった雰囲気が当たり前になっていくといいですね。」と語っていました。

〈インタビューの様子〉

男女共同参画社会実現に向けたメッセージを、全ての人（＝For You）に発信したいとの願いが込められています。

年2回、春期と秋期に発行しています。

有意義な機会に感謝

メディアコミュニケーション学科で担当する授業「企画・インタビュー手法」は、インタビューの企画立案から実践、そして原稿作成という一連の流れを学生に体験させ、コミュニケーション能力を養成することを目的にしています。

今回、新座市男女共同参画推進プラザから男女共同参画情報紙の制作について、学生とコラボレーションできないかというご相談をいただきました。学生のインタビュー実践に絶好の機会であり、何より将来社会に出て行く学生にとって有意義なご提案と受け止め、授業で取り組むことにしました。

9グループに分かれて市内の方々にお会いしましたが、学生は一様にインタビューの難しさを実感したようです。

それでも先輩諸氏の温かな対応に何とかやり遂げることができました。多くのアドバイスをいただき、働くことの意味を感じ取ったようです。ご協力いただいた皆様方にあらためて感謝申し上げます。

（十文字学園女子大学教授　石野榮一）

あとがき

「For You」には、真の男女共同参画社会実現に向けたメッセージを、全ての人（＝For You）に発信したいとの願いが込められています。

年2回、春期と秋期に発行しています。

編集・問合せ

にいざほっとぷらざ5階
男女共同参画推進プラザ
電話　048(486)8639